令和３年度　全国学力・学習状況調査（令和３年５月２７日実施）

三田市の結果概要

「自分が好き、人が好き、このまちが好き、
夢にむかって歩むさんだっ子」

をめざして

三田市教育委員会

本市の結果をお知らせします

令和３年５月２７日に文部科学省が、「全国学力・学習状況調査」を行いました。

今年で１３回目を迎えるこの調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況を調べ、義務教育の成果と課題を確かめ、改善を行うために実施するものです。

三田市では、これまでの調査結果も活用し、分析を進めました。

本市の「国語、算数・数学」と「質問紙調査」についての分析結果についてお知らせします。

１　本調査のとらえ方

三田市教育委員会では、この調査の結果を受け、三田市学力向上推進委員会を開催し、三田市の結果分析を進めてきました。三田市の平均正答率は、過去１２回と同様に、小学校・中学校共に全国・県平均を上回り“良好”でした。

また、「教科に関する調査（国語、算数・数学）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」との関連についても分析した結果、

①「朝食を毎日食べている。（P８）」

②「家で自分で計画を立てて勉強をしている。（P９）」

③「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている。（P１４）」

④「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」（P１６）」

などと回答している子どもは、平均正答率が高い傾向が見られました。

さらに、各学校においても結果を分析し、学力向上に向けた様々な取組の成果と課題を明らかにし、今後の改善につなぎます。

次代を担う子どもたちが、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、健やかに育ち、心豊かに生きていくためには、学校と家庭、地域の協力や連携がとても大切です。

三田市教育委員会は、調査結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、子どもたちの『生きる力』を育成していくための取組を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

２　調査の概要及び公表方法について

（１）調査の実施日　令和３年５月２７日（木）

（２）調 査 の 対 象　小学校６年生（市内 20 校 ９７０名）

中学校３年生（市内８校　８５２名）

（３）調 査 内 容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実施し評価・改善する力　等

※調査問題では、上記２点（知識、活用等）を一体的に問う

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

（４）公表方法について

本結果概要では、全国や兵庫県の状況を踏まえた上で、教科と領域ごとの結果と、本市の子どもたちの優れている点やつまずきが見られる点について明らかにすると共に、学びのポイントについて総合的に分析した結果の一部を記載しています。

同様に、子どもたちの学習や生活に対する意識や実態等について、「教科に関する調査（国語、算数・数学）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二つの結果をもとにした、「児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析（Ｐ８～Ｐ１８）」を記載しています。

また、国・県においては、細かい桁によるわずかな差は、学力面での実質的な違いを示すものではないと考えられるとして、各教科の平均正答率は整数値で公表しています。

三田市もこれに準じ、各教科及び領域の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で公表します。ただし、質問紙の数値については、従来通り、小数点以下第１位の数値を公表します。

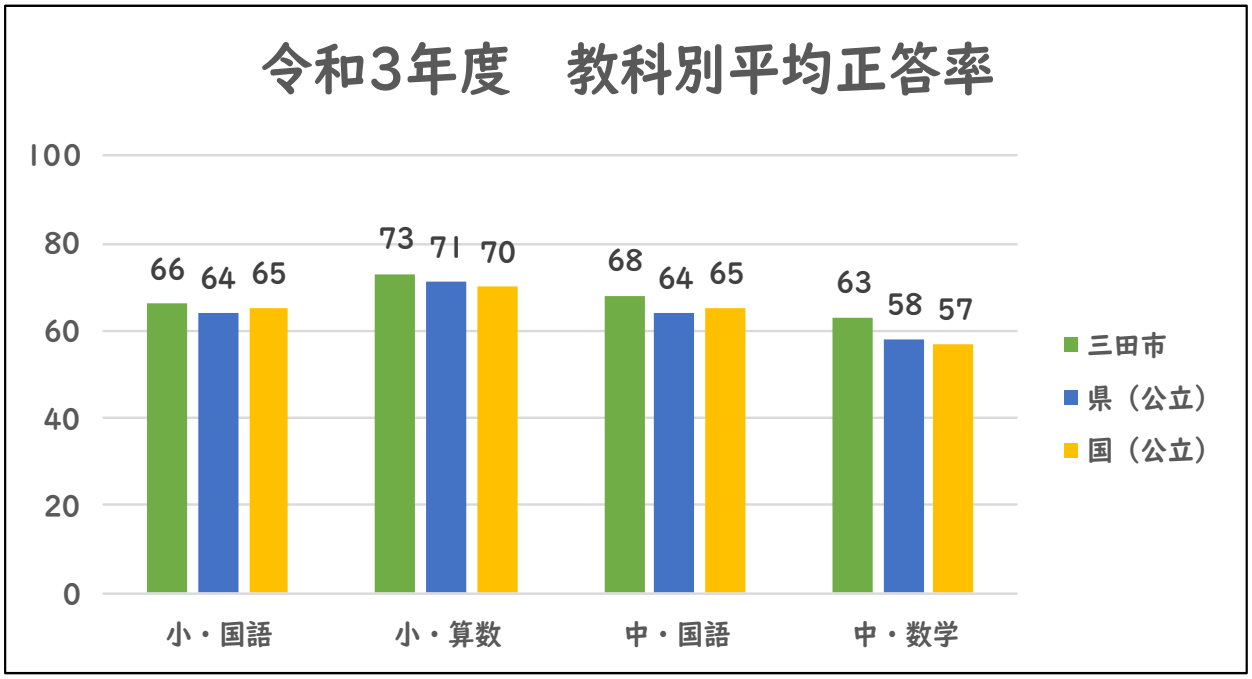
3　子どもたちの学力の定着状況について

「国語、算数・数学」全体の調査結果

全国・兵庫県の状況を踏まえ三田市の現状を分析したところ、結果は

良好でした。

平均正答率（%）



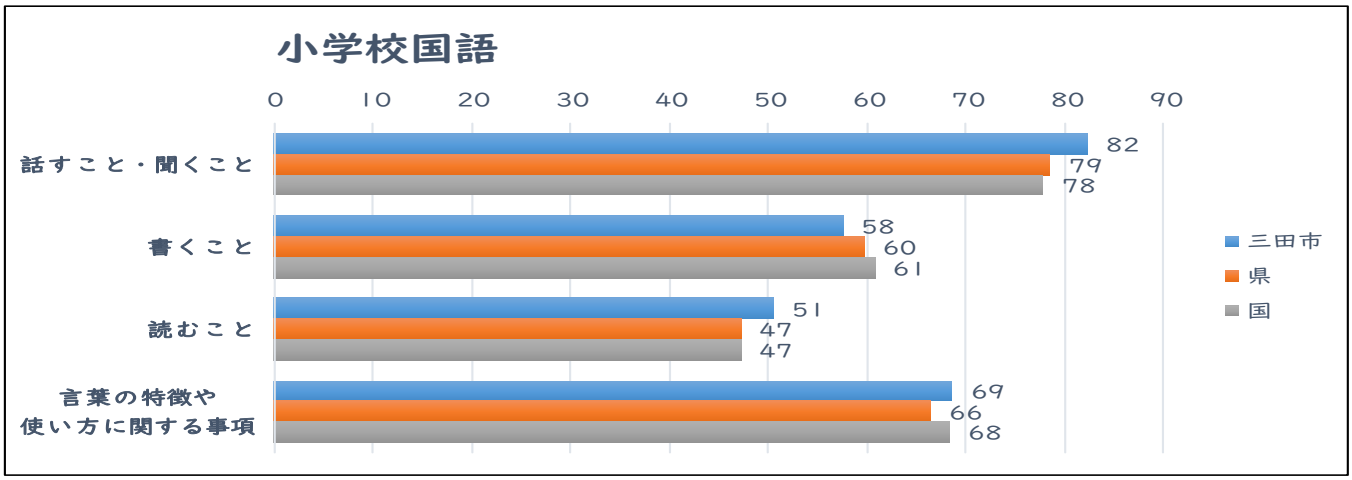
本市の傾向

※国語、算数・数学の全てにおいて、全国・兵庫県の平均正答率を上回っています。

※今年度は、下記の１項目で全国平均を６ポイント以上、上回っていました。

・中学校数学（全国平均より＋６ポイント）

①小学校：国語



本市の傾向と学びのポイント

※「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

・文章構成を理解し、内容の中心を読み取ること

・資料を用いた意図や目的を理解すること

【課　　題】

① 目的に応じて、理由を明らかにし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くこと

② 複数の情報（本文・図表など）を関連付けながら、考えを書くこと

学びのポイント

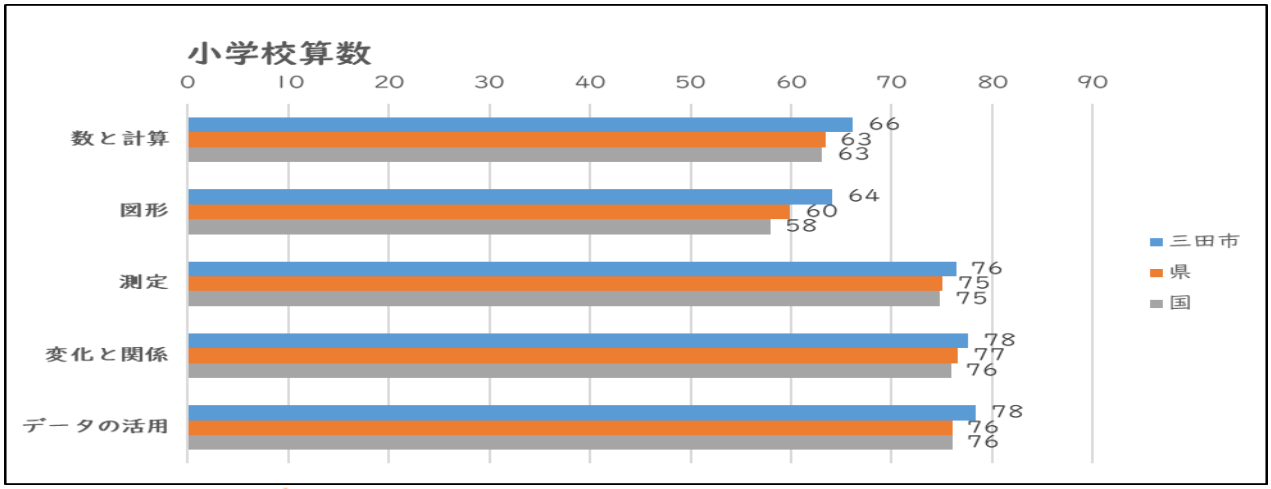
①目的に合った情報を取捨選択して書く習慣を身につけよう。

②課題解決に向けて、どのような情報が必要なのかを確かめ、複数の情報を組み合わせて考えを書く力を身につけよう。

・文章と図表を結び付けて書くためには「何について」「何の目的で」「どのように」について検討し、それぞれの情報からキーワードを見付けて囲んだり、図表が適切かどうかを吟味したりしてみましょう。

・複数の情報を集めて取捨選択するときには、「ふせんに情報を書き出して考える」「表などを使って内容を分類整理する」といった手立てを使ってみましょう。

②小学校：算数



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

・棒グラフから読み取れる数値を比較すること

・速さと道のりを基に時間を求めること

【課　　題】

① 複数のデータを比較し、その特徴を見つけ出し、数値を使って説明すること

② わり算の式と商の意味を理解すること

学　び　の　ポ　イ　ン　ト

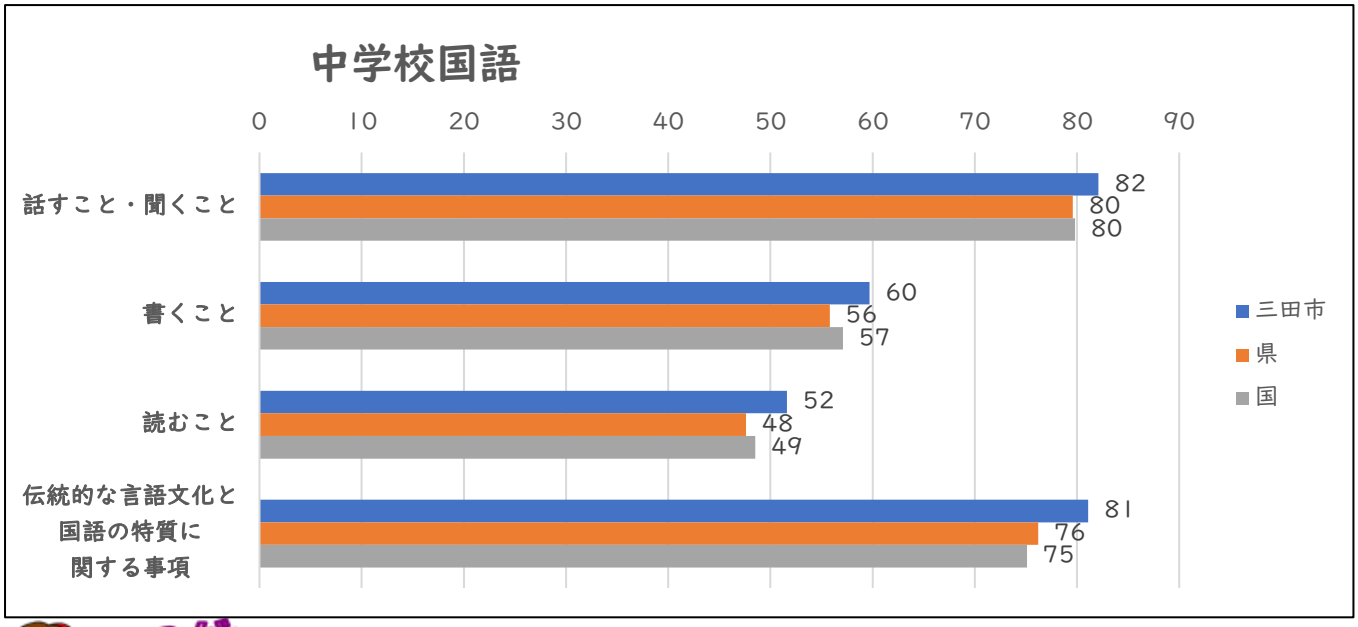
①数値のちがいに目を付けながら、グラフの特徴を伝え合う活動をしよう。

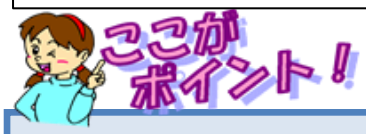
②問題場面を図や式につなぎ合わせながら、商の意味を説明しよう。

・ICT 機器などを活用しながら、グラフづくりや数値を読み取る活動に取り組んでみましょう。

・商の見通しを持ったり、商を問題場面にあてはめて確認したりする習慣を持とう。

③中学校：国語





本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- 話し合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりすること
- 文脈に即して漢字を正しく読むこと

【課　　題】

①文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと

②書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと

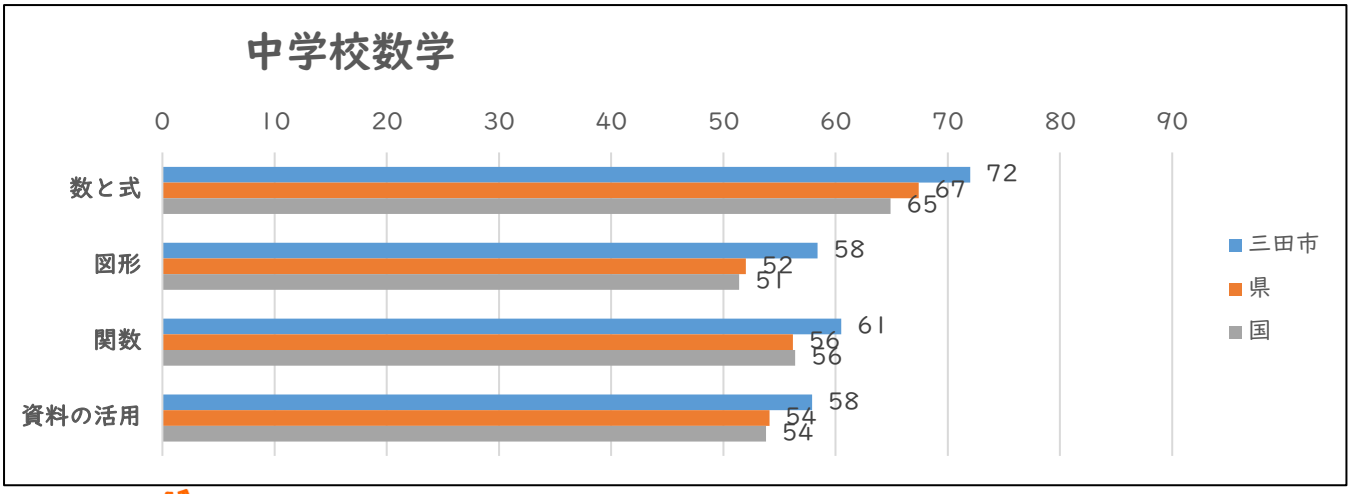
学びのポイント

①ニュースの記事を読み、自分の考えをまとめてみよう。

②短い文章も、推敲する習慣をつけよう。

- ニュースについて、友だちや家族、先生など周りの人と話し合いましょう。
- 自分の好きなジャンルの文章だけでなく、いろいろな文章（物語文・随筆文・説明文・論説文・記録文など）に触れられるような読書を心がけましょう。
- 語彙を増やすことで考えを深め、自分の意見を自分の言葉で、最後まで表現できるようにしましょう。
- 読み手に自分の思いが正確に伝わる文章を書きましょう。

④中学校：数学



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- 文字式の加法と減法の計算
- 数量の関係を目的に応じて変化すること
- 表やグラフから必要な情報を読み取ること

【課　　題】

ある条件下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現すること

学びのポイント

①平行線や角の性質等の図形の性質を理解し、成り立つと予想されることを考える

※実物や ICT を活用し、イメージすることも有効

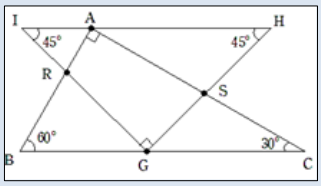
（三角定規を重ねると、どんな四角形ができるかを考えよう）

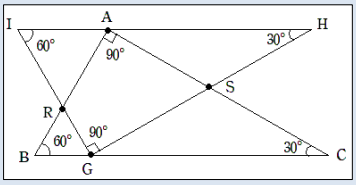
②予想したことが成り立つことを数学的に説明する（論証）

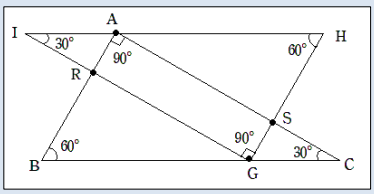
③説明できたことを、端的に数学的表現でまとめる。

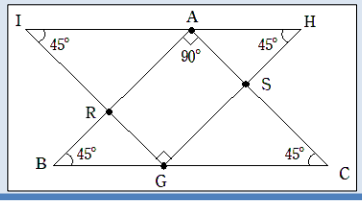
【発展】図形を変更して成り立つことを考える。

（基本）　　（発展）









4 三田の子どもたちの学習や生活に対する意識・実態について

～児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析より～

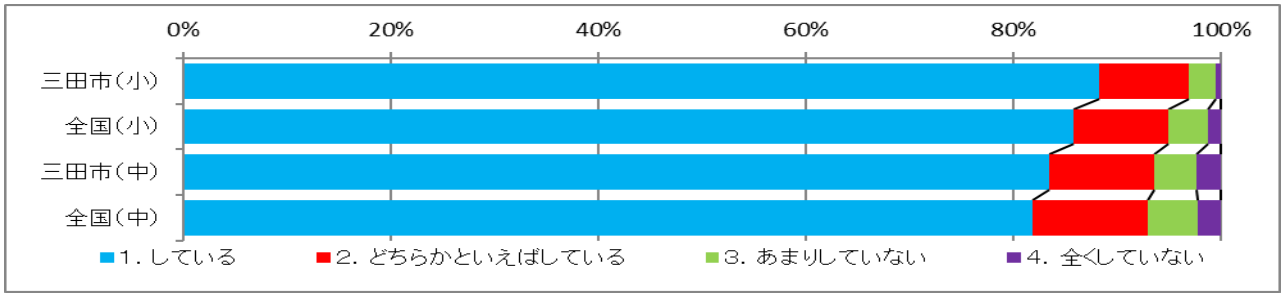
『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』の視点から

児童生徒質問紙調査については、全国値との比較、小中学校の値の比較から、三田市の特徴や課題を分析します。視点は、これまでと同様に『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』です。

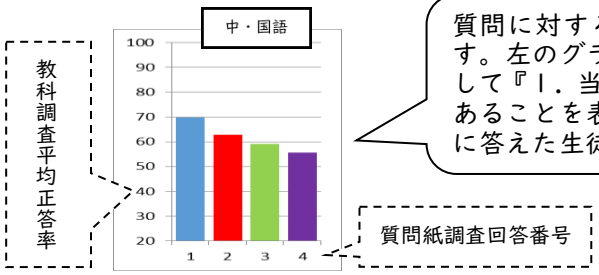
また、平均正答率上位層と下位層の回答内訳から、生活・学習習慣改善へのアプローチを分析します。

1 「生活・学習習慣」と学力

Q1.朝食を毎日食べていますか



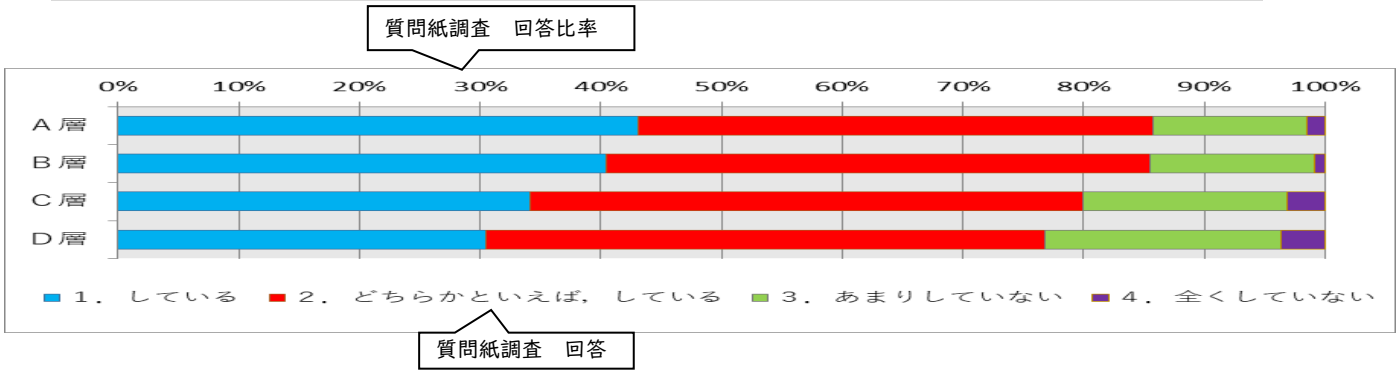
＜各教科正答率とのクロス集計＞



質問に対する回答者の教科の平均正答率をグラフにしたものです。左のグラフでは、「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して『1．当てはまる』と回答した生徒の平均正答率が約 70%であることを表しています。このグラフでは、質問に対して肯定的に答えた生徒ほど、正答率が高い傾向があることが分かります。

Q2.毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

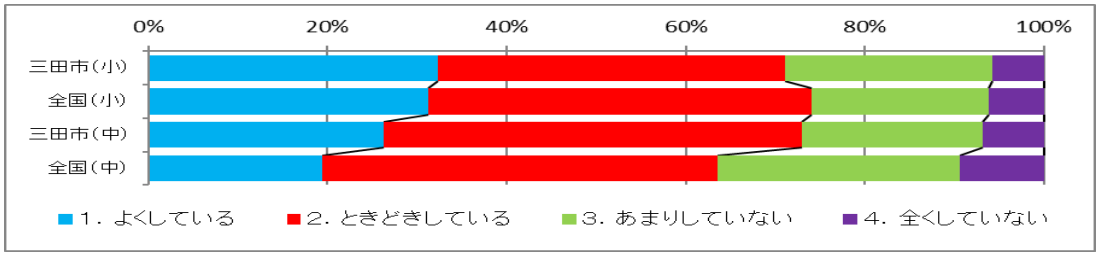
平均正答率の上位 25%（A 層）～下位 25%（D 層）での回答内訳の比率 【小学校国語】

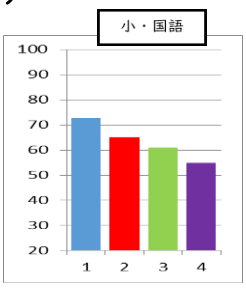


各層は三田市の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により 25%刻みで 4 つの層分けを行っています。上位から 1 番目を A 層、2 番目を B 層、3 番目を C 層、4 番目を D 層と呼称します。正答数が同じ場合は，上位の層に含むものとしています。

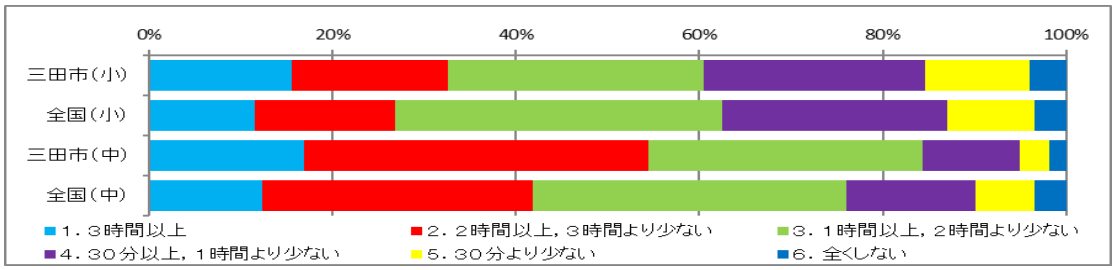
○今回の調査からも、生活習慣を整えることが学力向上の要因の一つとなることが表れています。
○基本的生活習慣の確立を図るためには、児童生徒が自己の生活習慣を振り返ったり、家庭と学校が連携して児童生徒の生活習慣作りをサポートしたりする取組が大切です。

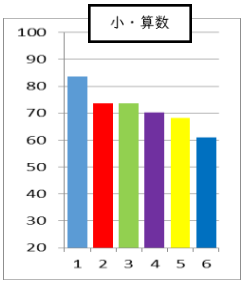
Q17.家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



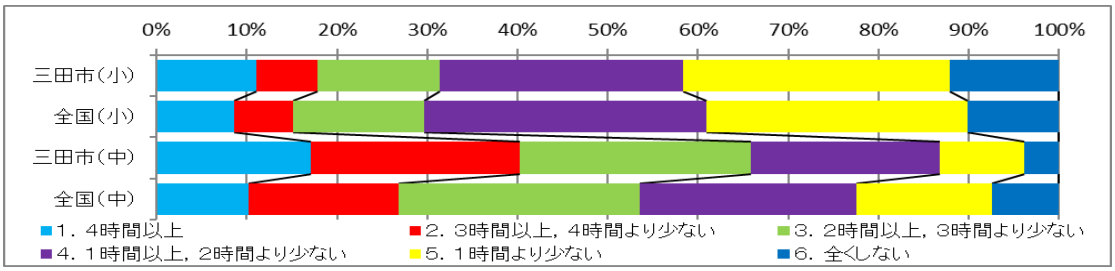


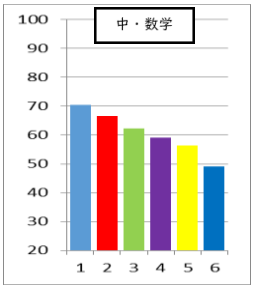
Q18.学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）





Q19.土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）





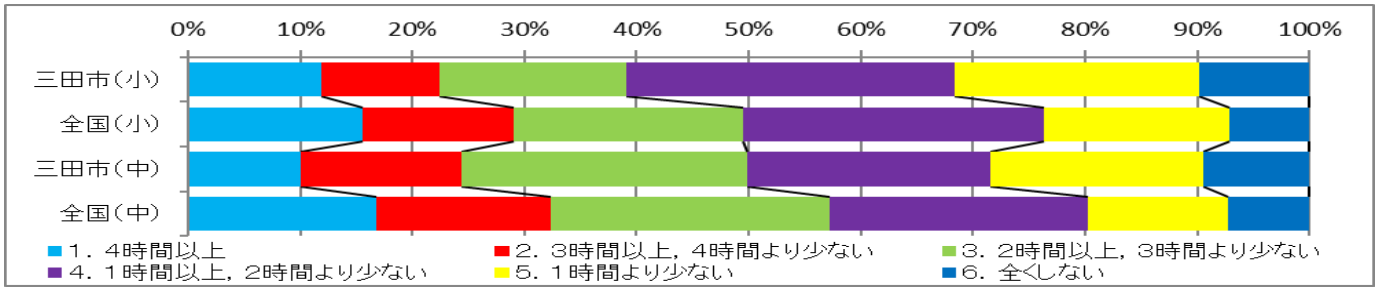
○「計画を立てて勉強する」と答えた児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。児童生徒が自己の目標に向かって、計画的に宿題に取り組んだり、その日の学習内容について復習したりすることは学力の向上につながると考えられます。

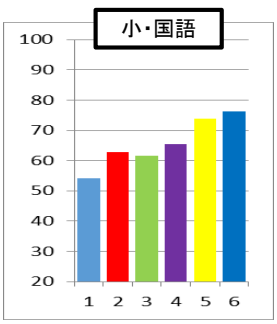
○家庭における児童生徒の勉強時間は、平日に 2 時間以上勉強をしている児童生徒の割合は、小学生 32.5%（全国 26.9%）で 5.6 ポイント、中学生 54.5%（全国 41.8%）で 12.7 ポイントそれぞれ全国平均を上回っています。また、休日に 3 時間以上勉強している児童生徒の割合は、小学校 17.8%（全国 15.2%）で 2.6 ポイント、中学校 40.3%（全国 26.8%）で 13.5 ポイントそれぞれ全国平均を上回っています。小学校段階から家庭での勉強時間が確保できており、望ましい学習習慣が中学生になっても一層定着していることが学力の向上につながっています。

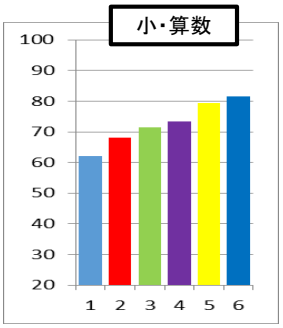
○小学校５年生全員に配布している『ひとり学びへの手引き』を活用することや、やるべきことに優先順位をつけること」や、「勉強時間を十分に確保すること」など、学校や家庭において、児童生徒の家庭学習を促すように働きかけることが大切です。

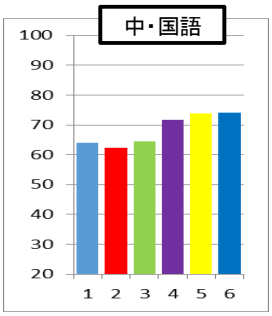
○また、児童生徒の家庭学習に対して、学校や家庭でその努力を認め励ますなど、児童生徒が自信をもって学習に取り組めるよう支援するとともに、児童生徒が自分にあった勉強方法や学習習慣を身につけていくことが望まれます。

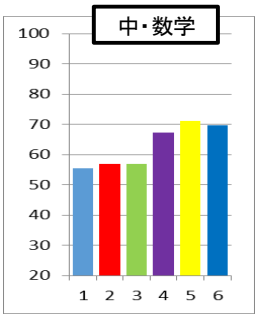
Q5.普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか







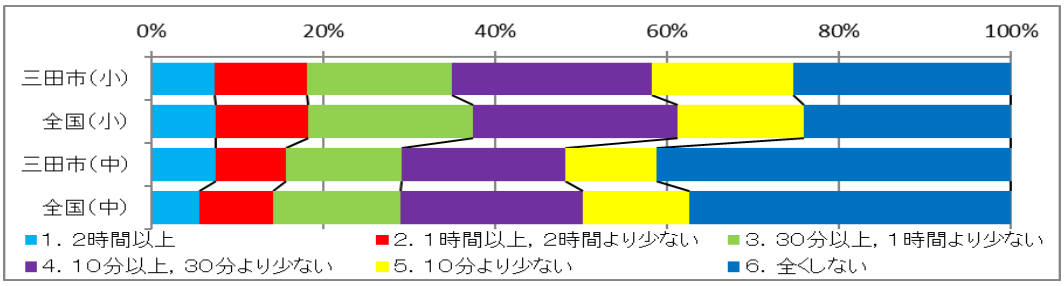


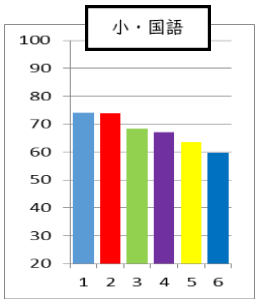


○ゲームを全くしないまたは、1時間より少ない児童生徒の割合は、小学生 31.6%（全国平均 23.7%）で 7.9 ポイント、中学生 28.4%（全国平均 19.7%）で 8.7 ポイントそれぞれ全国平均を上回っています。また、ゲームをする時間が少ない児童生徒の割合は、国語・算数・数学のすべてにおいて、平均正答率が高い傾向があります。

○一方で、3時間以上ゲームをする児童生徒の割合が、小学生が 22.4%（全国平均 29.0%）、中学生が 24.3%（全国平均 32.3%）います。ゲームやスマートフォン等の長時間の利用についてルールを決めたり、児童生徒が一日の目標や計画を立てたりするなど、自分の目標に向けて時間を管理する「タイムマネジメント力」を育んでいくことが大切です。

Q21.学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



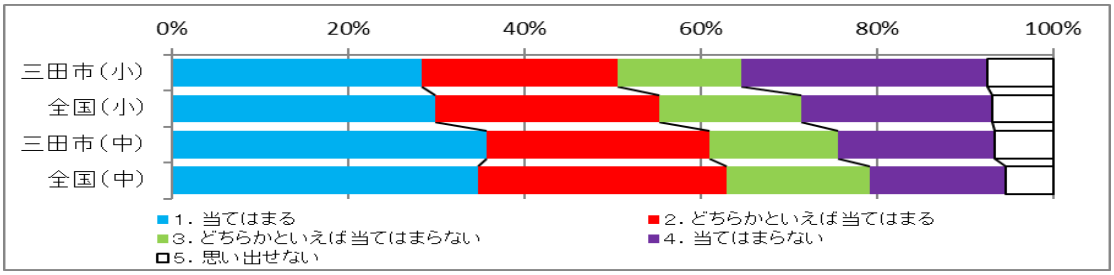


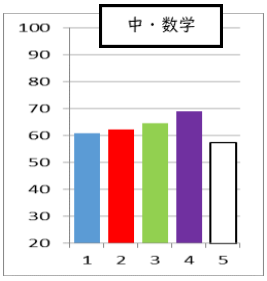
○学校の授業時間以外に1日当たり 30 分以上読書すると回答した児童生徒の割合は、小学生 34.9%（全国平均 37.4%）、中学生 29.1%（全国平均 28.9%）と全国と同程度でした。前々回（平成 30 年度）の調査では、「読書を 30 分以上する」と回答した割合は、小学生 38.6%、中学生 26.2%で、前回（平成 31 年度）の調査で、「読書を 30 分以上する」と回答した割合は、小学生 40.6%、中学生 26.9%となっており、中学生では読書習慣を身につけている生徒の割合は増加傾向にあります。

○一方で「読書が 10 分未満」と回答した児童生徒の割合は、小学生 41.8%（全国平均 38.7%）、中学生 51.7%（全国平均 49.8%）と学校の授業以外での読書時間の少ない児童生徒も多くいます。

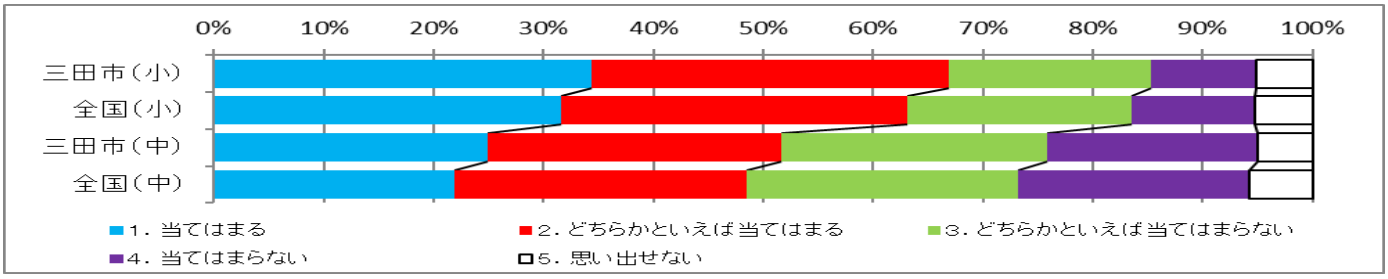
○三田市では、小学校における学校司書の配置や学校図書館の充実、さんだっ子読書通帳の活用や読書タイムの設定等の取り組みを行っており、今後も継続して読書活動の充実を図ることにより、読書習慣の確立につなげていきたいと考えています。

Q64.新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか

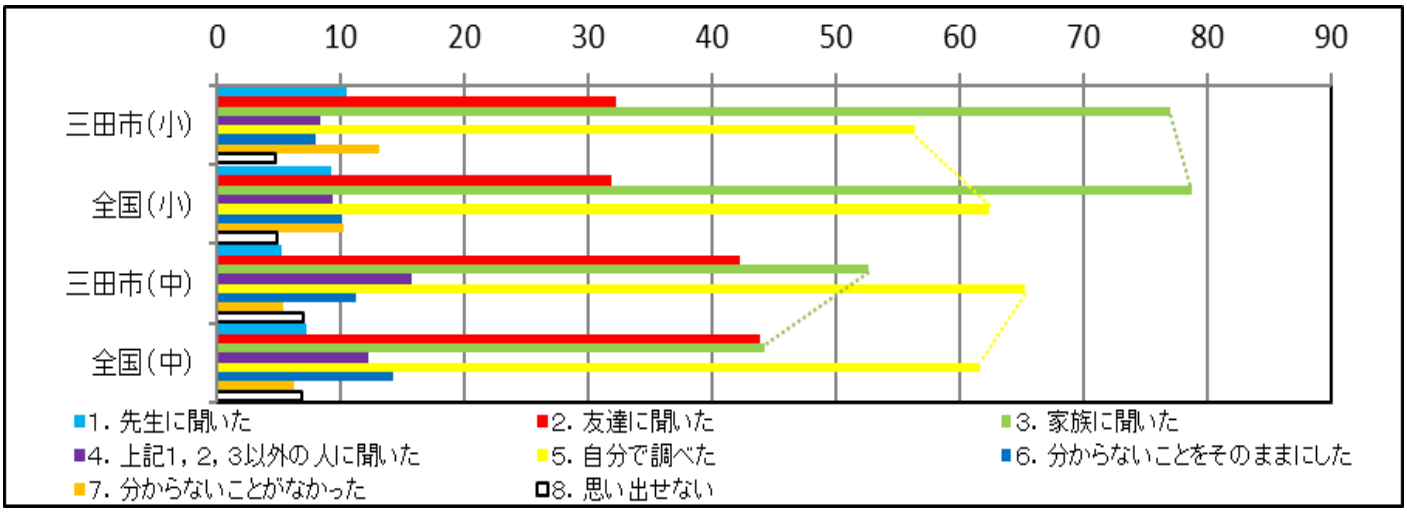




Q66.新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか



Q67.新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）



○「新型コロナウイルス感染拡大で休校していた期間、勉強に不安を感じた」児童生徒の割合は、小学校で 50.4%（全国 55.2%）、中学校で 61.1%（全国 62.8%）と全国平均と同程度となっています。また、「規則正しい生活を送ることができた」と肯定的に答える児童生徒の割合も小学校で 66.8%（全国 63.1%）、中学校で 51.4%（全国 48.4%）と全国平均と同程度となっています。

○休校していた期間中、学校からの課題でわからないことがあったとき、「家族に聞いた」児童生徒の割合は小学校で 77.0%（全国 78.8%）、中学校で 52.7%（全国 44.3%）でした。また「自分で調べた」児童生徒の割合は小学校で 56.4%（全国 62.4%）、中学校で 65.3%（全国 61.6%）でした。

○小学校では、家庭のサポートが児童の安心につながり、中学校では家庭のサポートとともに、自分で調べるなど自立した学習への取り組みが家庭学習では大切になります。今後も学校と家庭が連携し、子どもたちの家庭での学びをあたたかく見守ることが大切です。

2 「学ぶ意欲」と学力

学習指導要領の総則において、「言語能力」、「問題発見・解決能力」、「情報活用能力（情報モラルを含む。）」等が学習の基盤となる資質・能力として示されています。『主体的・対話的で深い学び』のある授業の実現により、こうした資質・能力を育てていくことが求められています。

『主体的・対話的で深い学びの実現の視点からの授業改善』について

【主体的な学び】… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習につなげる。

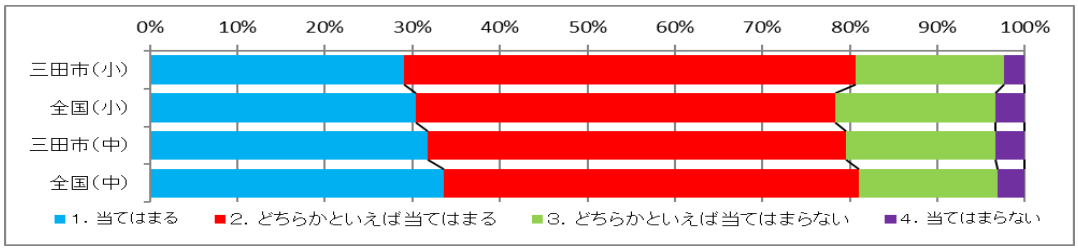
【対話的な学び】… 子ども同士の対話、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図ることによって、自己の考えを広げ深める。

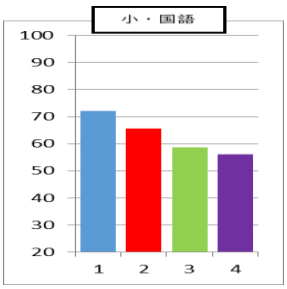
【深い学び】 … 学びの過程（習得→活用→探究）の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

ここでは、「学ぶ意欲と学力」について、『主体的・対話的で深い学び』の視点から、児童生徒質問紙調査について分析します。

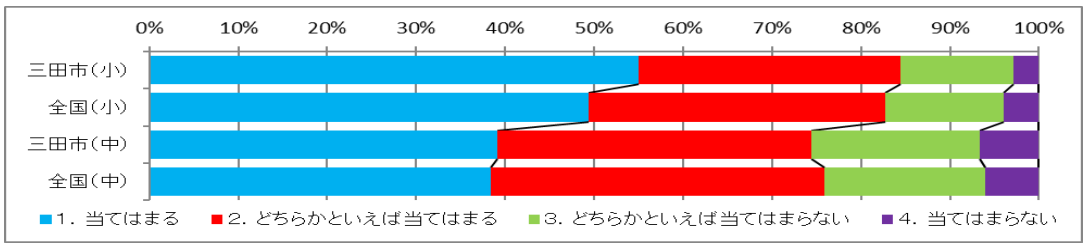
【主体的な学び】の視点から

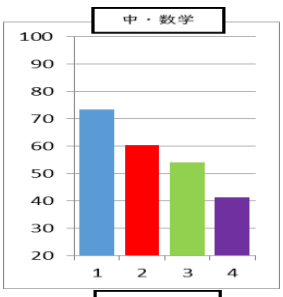
Q33.5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



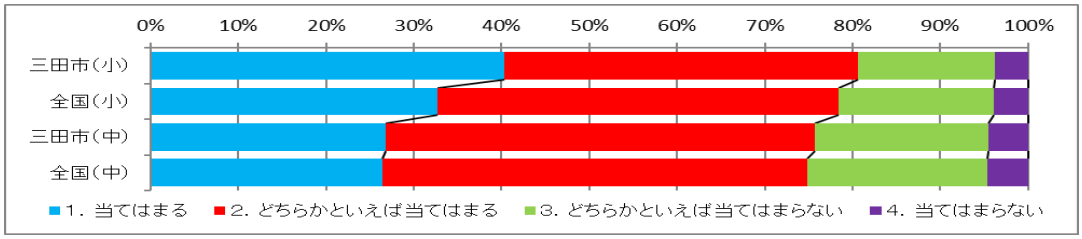


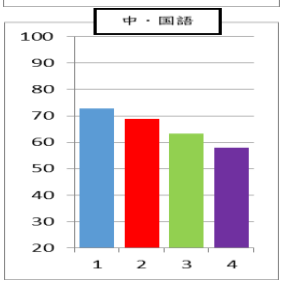
Q57. 算数〔数学〕の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか





Q38.学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか





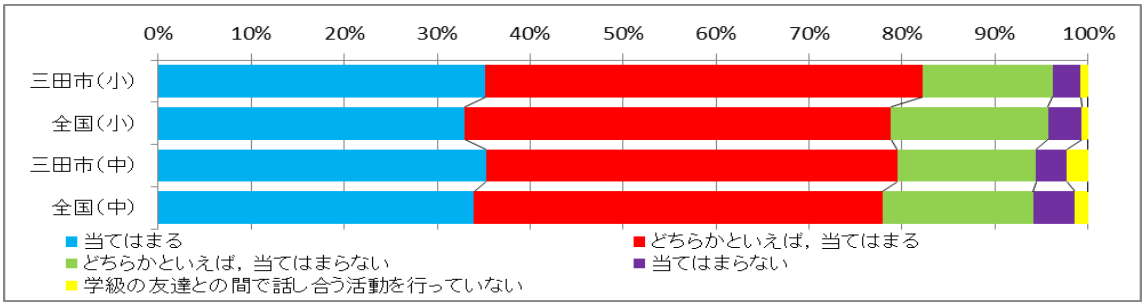
粘り強く学習に取り組んだり、学んだことを他の学習に生かしたりすることを意識しよう

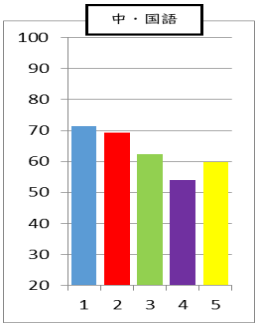
○「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」では、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国平均とほぼ同程度です。また、「諦めずに学習に取り組む」ことについては、小学校では肯定的に答える児童が８割を超えています。「学んだことを見直し、次の学習につなげる」では、肯定的に答える児童生徒の割合が小中学校ともに全国平均を上回っています。

○主体的に学ぶ意欲が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあることから、「粘り強く学習に取り組む力」や「自らの学びを調整し、次の学びに生かしていく力」を育む学習を充実させていくことが大切です。

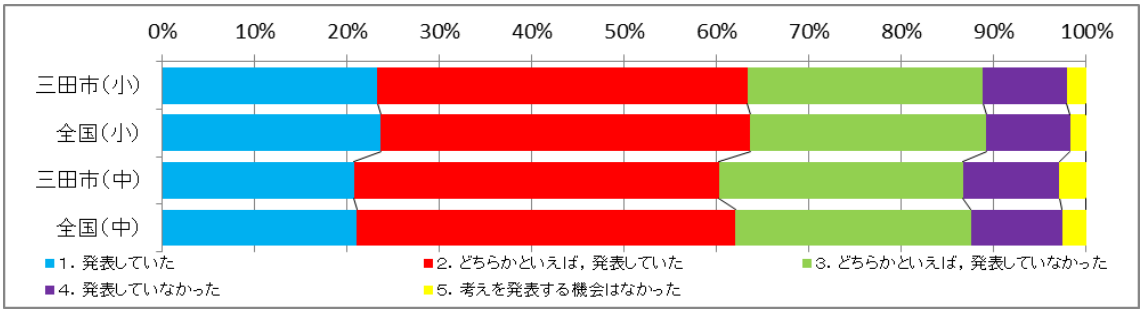
【対話的な学び】の視点から

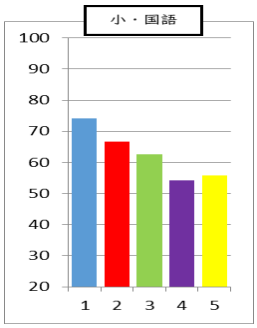
Q37.学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



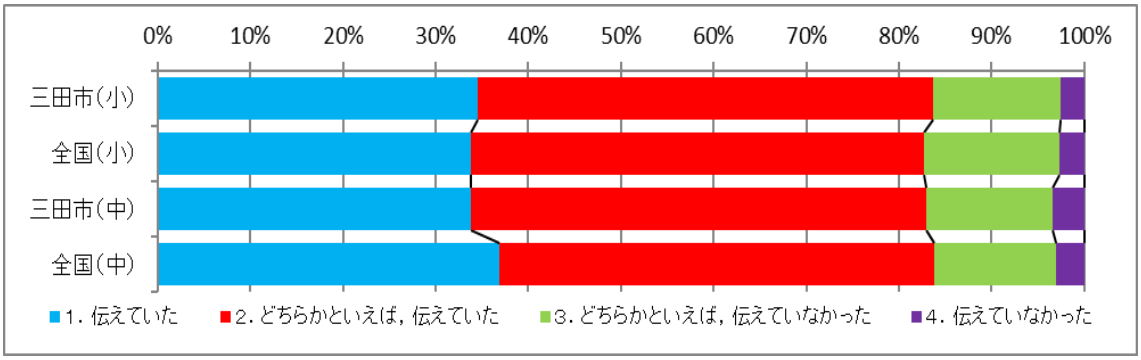


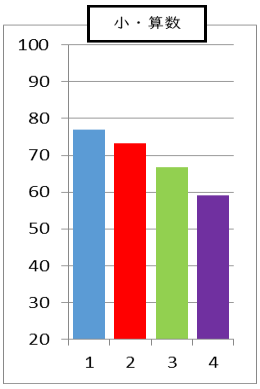
Q32.5年生まで〔1，2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか





Q31.5年生までに〔1，2年生のときに〕受けた授業で、学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかり伝えていましたか





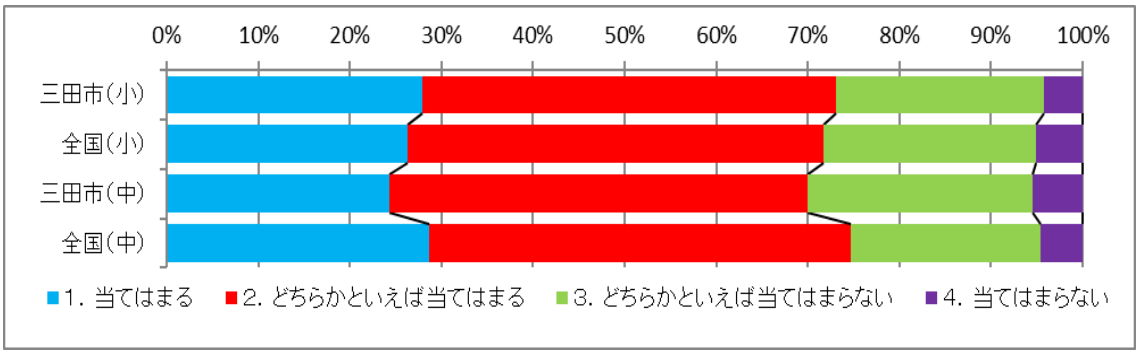
対話を通して論理的に考えたり批判的に考えたりする力を身につけよう

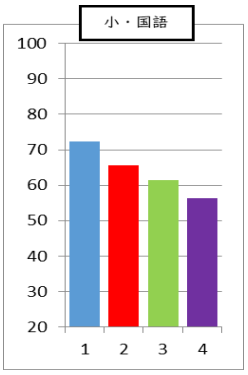
○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度で、小学校では全国平均より高く、８割を超えています。また、「資料や文章、話の組立てを工夫して発表していた」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国平均と同程度となっています。「相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかり伝えていた」では、小学校、中学校ともに全国平均と同程度となっています。

○課題解決に向け、他者と協働的に学習に取り組む授業を充実させ、論理的に考えたり批判的に考えたりしたことを表現につなぐことが大切です。そのためには、自分の考えがうまく伝わるようにするための方法を考えたり、効果的な資料を選択あるいは作成したりするといった学習が大切です。また、１人１台端末を効果的に活用することで、必要な情報を収集し、選択、整理するといった情報活用能力の育成が必要です。

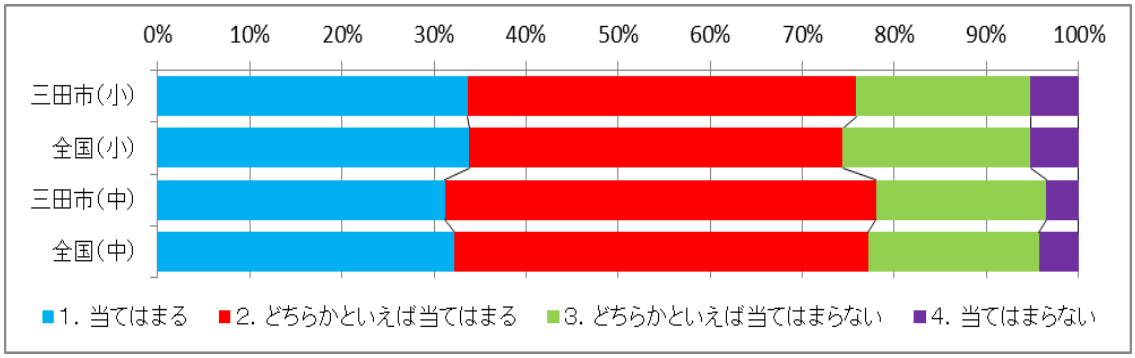
【深い学び】の視点から

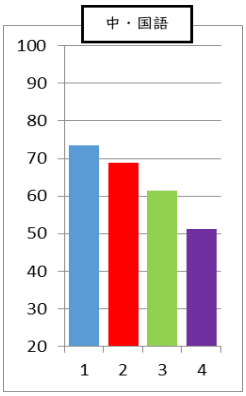
Q49.国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか



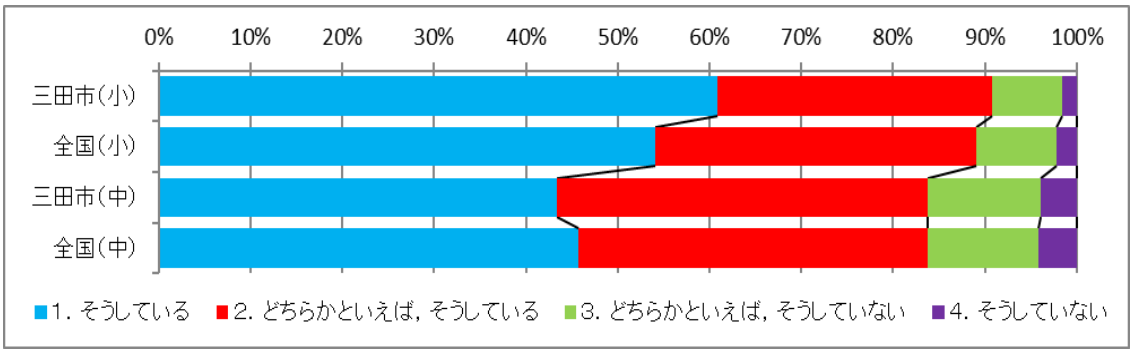


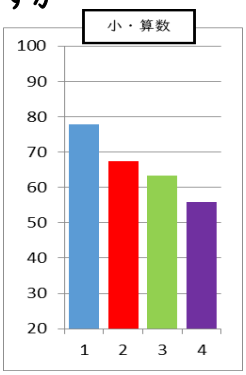
Q50.国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか





Q58.算数〔数学〕の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか





目的に応じて情報を選択したり関連付けたりして、理由を明確にして自己の考えを表現しよう

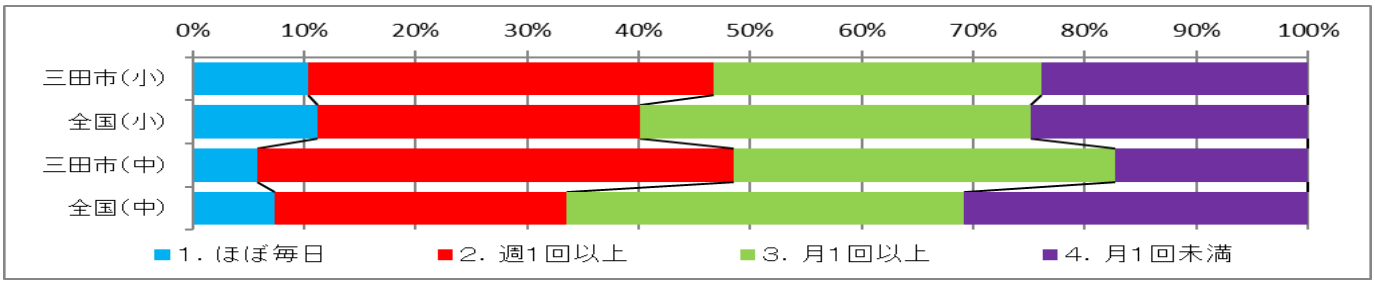
○「国語の授業では、目的に応じて，自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫したりしている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度で、小学校では全国平均より高く、中学校では全国平均より低くなっています。また、「公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度で、小学校では９割を超えています。

○これらの項目に肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高いことから、目的に応じ必要な情報を選択し関連付けたり、課題解決の過程を説明したりするなど、自己の考えを適切に表現できる力を育成することが、学力向上において大切であることが伺えます。

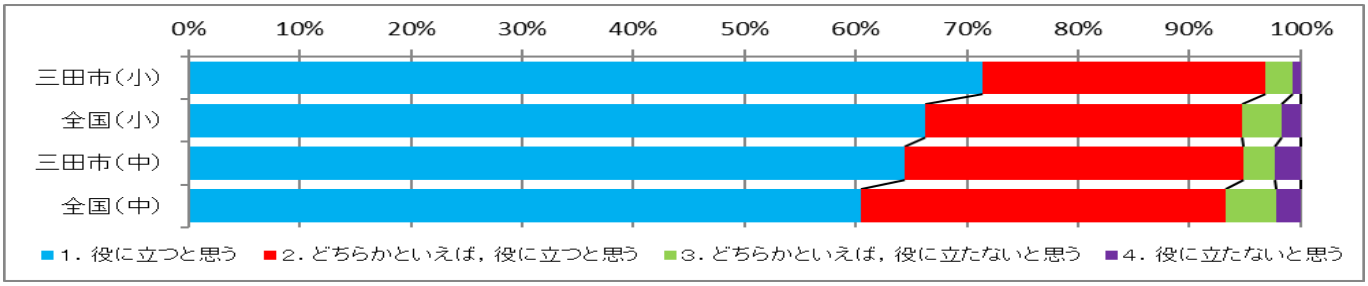
○学習活動においてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報の収集・整理・分析・表現・発信等を行う情報活用能力の育成のために、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で ICT を活用することが重要です。

【ICT 機器の活用】の視点から

Q26.5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



Q28.学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



『主体的・対話的で深い学び』『ICT 機器の活用』の分析を通して

・自己の学びを丁寧に振り返り、「どのように学んだのか」を意識しよう。
・ICT 機器を学習ツールとして活用する機会を増やそう。

○『主体的・対話的で深い学び』の視点からの分析を通して、三田市では「課題解決に必要な情報に着目し、それらを関連付けて自己の考えを形成すること」「自己の主張を支える理由付けを大切にしながら学習すること」「課題解決に向けて他者と協働し、粘り強く学習に取り組むこと」ができる児童生徒の割合が高く、このような児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります。

○こうした児童生徒の学びに向かう姿は、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現に向け、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組んできたことによるものです。

○「自分の学びを振り返り、次に生かす力を育む授業」「友だちとの対話を通し学びを深める授業」「教科特有の『見方・考え方』を働かせ、考える力を育む授業」など、児童生徒の課題解決に向けた探究の過程を大切にした授業づくりを一層充実させることが大切です。

○日常生活の様々な場面で ICT（情報通信技術）を用いることが当たり前となっている児童生徒に、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための「情報活用能力」を育成することが重要です。

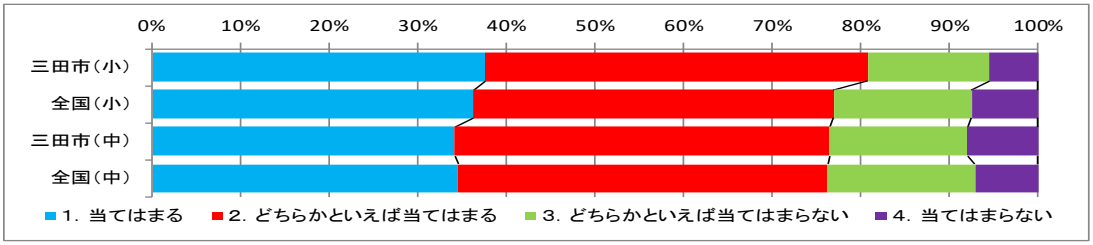
3 「自尊感情」と学力

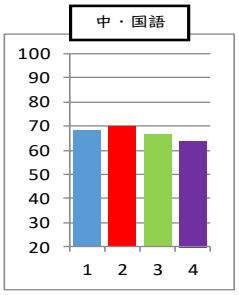
今、学んでいること、頑張っていることが未来の「自分」につながっている、そんな気づきを通して、児童生徒が学習への向き合い方や人間関係作り、社会とのつながりについて考えていくことが大切です。

ここでは児童生徒を取り巻く教育環境の観点から、自尊感情・キャリア教育、人や社会とのつながり、学校生活に関連する項目を分析します。

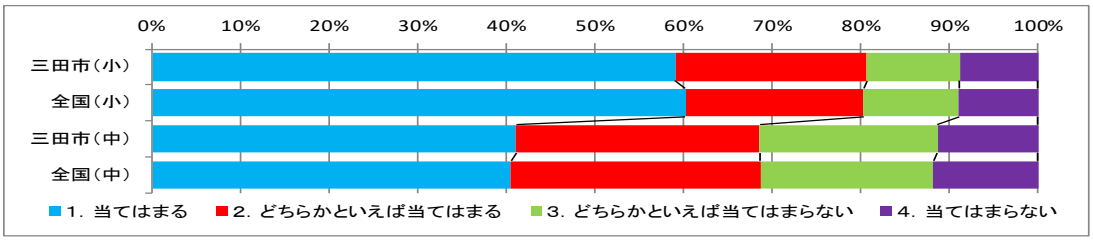
自尊感情・キャリア教育の視点から

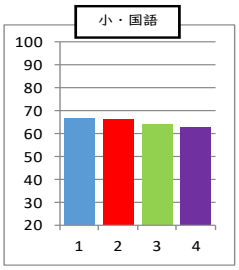
Q6. 自分には、よいところがあると思いますか



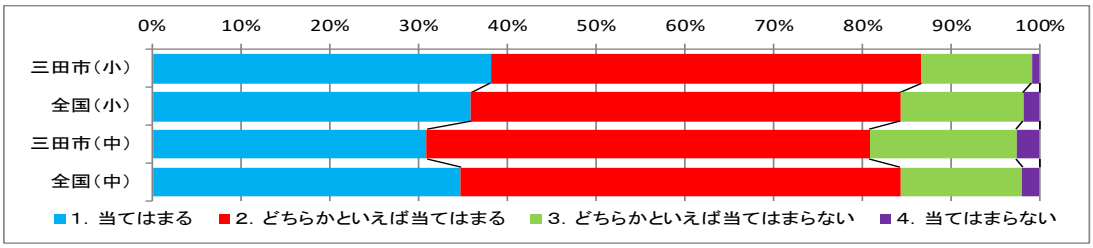


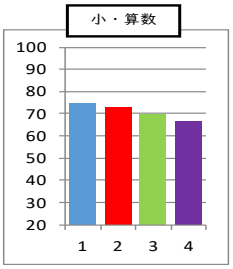
Q7. 将来の夢や目標を持っていますか



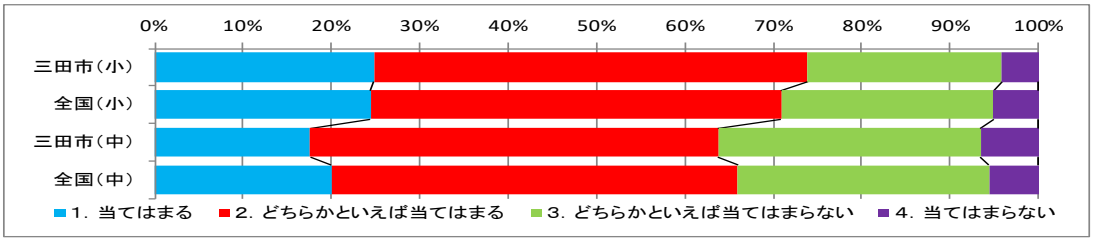


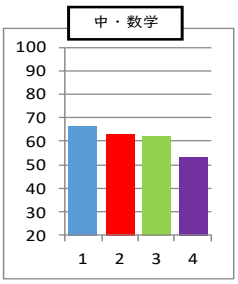
Q8. 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか





Q9. 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか





めざす子ども像「自分が好き、人が好き、このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子」

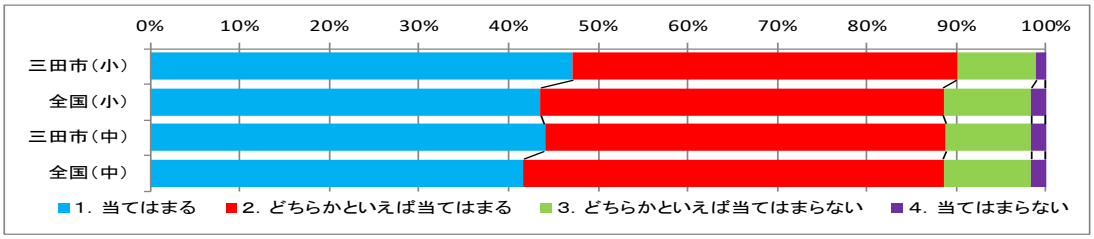
○自分のよさを肯定的に認める児童生徒の割合は、小学校で 80.7%（全国 76.9%）、中学校で 76.5%（全国 76.2%）で、全国平均よりも高いです。中学校では、平成31年度調査から 3.3 ポイント増加しました。

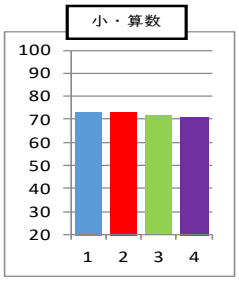
○Q8「やると決めたことは、やり遂げる」、Q9「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、Q8 小学校 86.7%（全国 84.3%）、中学校 80.7%（全国 84.2%）、Q9 小学校 73.9%（全国 70.9%）、中学校 63.8%（全国 65.9%）で、小学校は、全国平均より高い傾向にあります。

○どの項目も、肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率は、高い割合を示しています。子どもたちは、周囲から自分のよさや成長を認められることで、自己の可能性を認識し、自ら挑戦しようとする意欲を高めていきます。周囲からの毎日の声かけにより、子どもたちの自尊感情を向上させ、将来の夢や目標につなげられるようにしていきましょう。

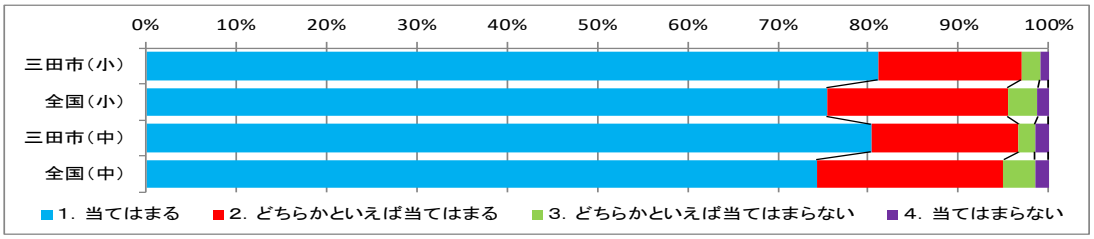
人や社会とのつながりの視点から

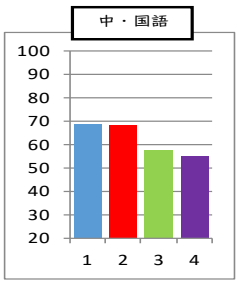
Q10. 人が困っているときは、進んで助けていますか



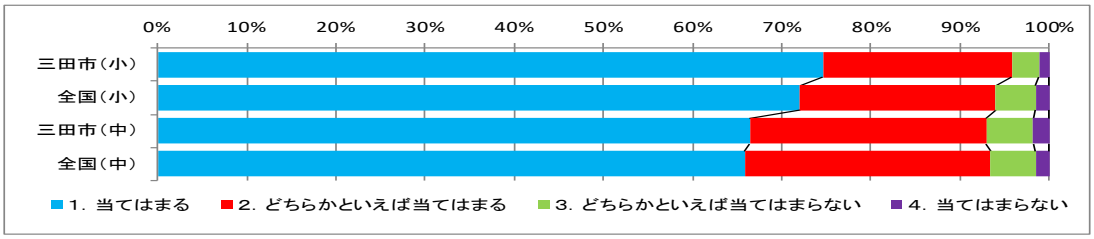


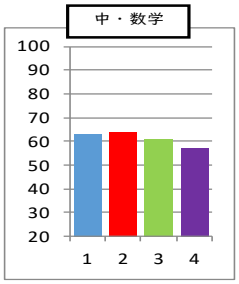
Q12. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



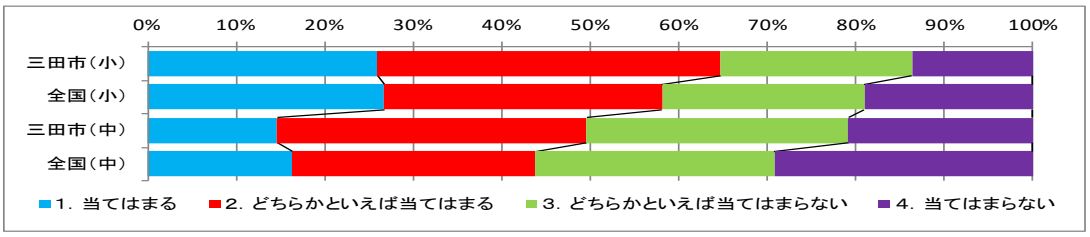


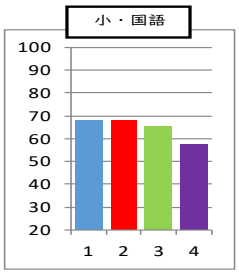
Q16. 友達と協力するのは楽しいと思いますか



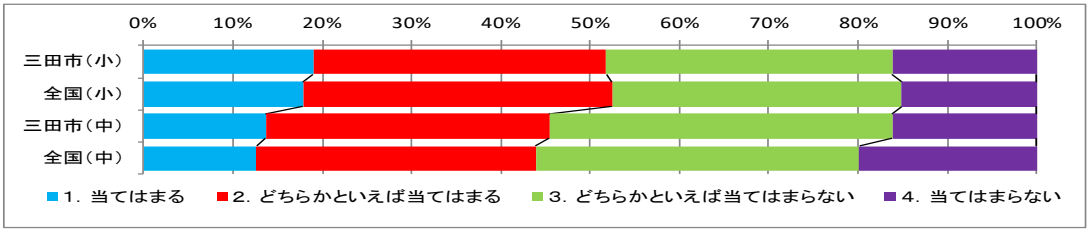


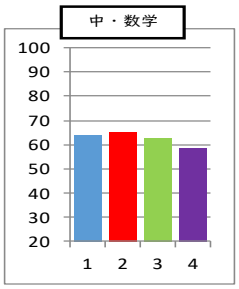
Q24. 今住んでいる地域の行事に参加していますか





Q25. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか





多くの人や社会とのつながりを深めながら、自分の良さや可能性を伸ばしていこう

○Q10「人が困っているときは、進んで助けている」、Q12「人の役に立つ人間になりたい」、Q16「友達と協力するのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、下記の通りで、概ね全国平均よりも高い状況です。

Q10 小学校 ： 90.1%（全国 88.7%）　中学校 ： 88.8%（全国 88.5%）

Q12 小学校 ： 97.0%（全国 95.5%）　中学校 ： 96.7%（全国 95.0%）

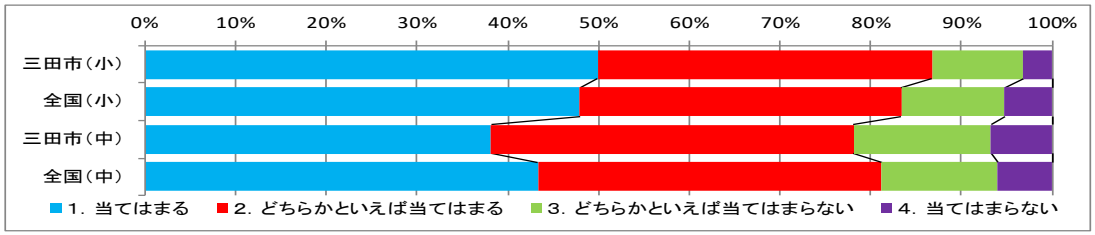
Q16 小学校 ： 95.7%（全国 93.9%）　中学校 ： 92.9%（全国 93.3%）

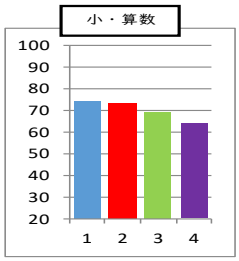
○「地域の行事に参加している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校 64.8%（全国 58.1%）、中学校 49.5%（全国 43.7%）で、全国平均よりも5ポイント以上高い状況です。

○地域の中で世代を超えた交流の機会を設けるなど、社会とつながる場を充実させることで、子どもの社会の一員としての自覚を促すことができます。人や社会とのつながりを通して、子どもたちが自己を見つめ、他者への関心や地域との関わりを深めていけるように、学校と家庭、地域社会の連携を充実させていきましょう。

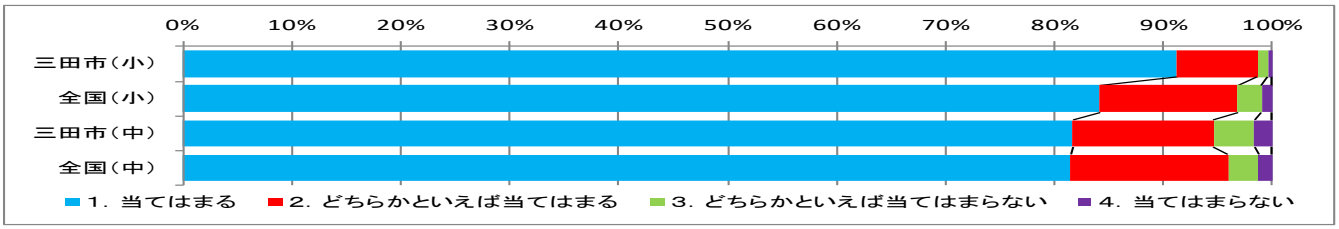
学校生活の視点から

Q13. 学校に行くのは楽しいと思いますか



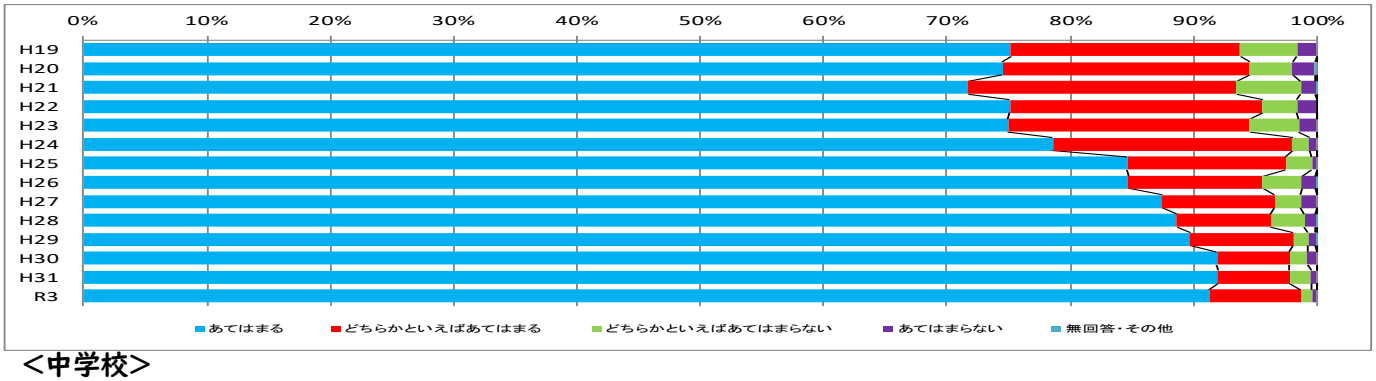


Q11. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

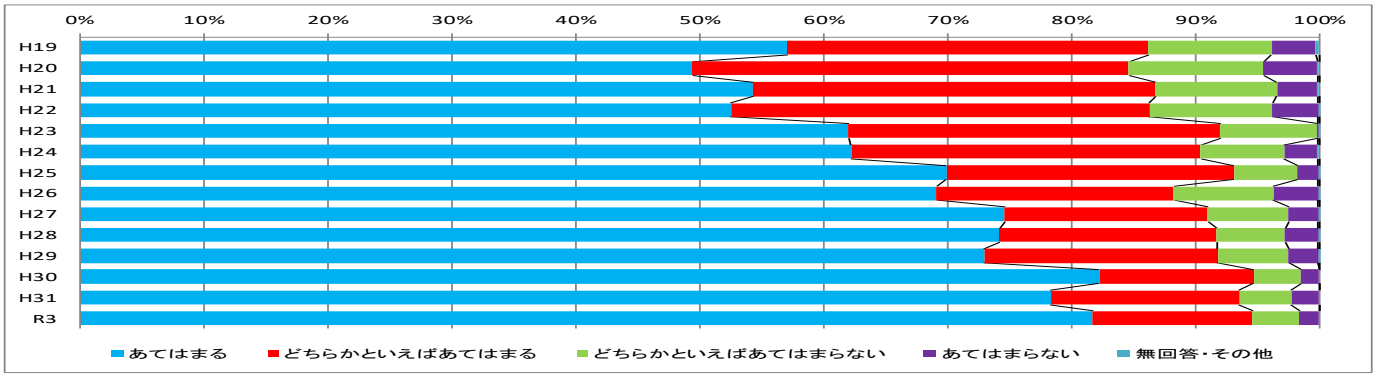


平成 19 年度からの経年比較　「いじめは、どんな理由があってもいけない」

<小学校>



<中学校>



『見逃すな！いじめの芽　咲かせよう！笑顔の花』 三田市立中学校生徒会

○「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 86.8%（全国 83.4%）、中学校で 78.0%（全国 81.1%）です。一方で、否定的に回答した児童生徒は、小学校 13.2%（H31：9.4%）、中学校　21.8%（H31：16.3%）で、平成31年度調査より増加している状況です。コロナ禍において、不安を感じている児童生徒がいることが考えられます。子どもたち一人一人にとって、学校が安心して人とつながったり、楽しく学習したりする場となるように、学校と家庭が連携して子どもたちの様子を見守っていくとともに、多様性を認め、尊重し合う仲間づくりを継続して進めていくことが大切です。

○「いじめはどんな理由があってもいけない」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小、中学校ともに前回調査よりも高い状況です。一人一人の「いじめを許さない」という意識を継続して高めていく取り組みが必要です。